

事業名		国営かんがい排水事業	地区名	い ぜ 名
都道府県名		沖縄県	関係市町村	しまじりぐん いぜなそん 島尻郡 伊是名村
事業概要	事業概要	本地区は沖縄県北西部の伊是名島に位置する伊是名村に拓けた畑地 5 2 0 haの農業地帯である。 畑作に必要な用水は雨水に頼る不安定なものとなっており、保水力の低い土壌条件と相まって恒常的に干ばつ被害を受けている。 このため本事業では、水源である千原地下ダム、大野山内貯水池の築造、幹線用水路の造成を行い、併せて関連事業により支線用水施設の整備を行うことにより作物の安定生産、農業経営の向上を図るものである。 なお、本地区におけるほ場整備等面的整備については平成 1 6 年度までに完了する計画である。 受 益 面 積 5 2 0 ha (畑 5 2 0 ha) 主要工事計画 千原地下ダム 790千m³ 地下貯水部、地表貯水部 (千原第 1 副貯水池、千原第 2 副貯水池、及び第 1 送水路 (延長2km) 第 2 送水路 (延長1km) を含む) 大野山内貯水池 40 千m³ カンゾウ用水路 L=3km (カンゾウ調整池を含む) 大野山内用水路 L=1km 国営総事業費 1 4 , 0 0 0 百万円 (平成 1 6 年度時点 1 4 , 1 0 0 百万円) 工 期 平成 1 1 年度～平成 2 3 年度予定 (平成 1 1 年度～平成 2 0 年度 工事期間) (平成 2 1 年度～平成 2 3 年度 施設機能監視期間)		
	評価項目	【事業の進捗状況】 事業全体の進捗率は 4 8 . 5 % である (平成 1 5 年度までの事業費ベース)。 主要工事別の進捗率は、千原地下ダム 4 2 . 4 %、大野山内貯水池 9 8 . 3 %、カンゾウ用水路 1 4 . 9 %、大野山内用水路 3 7 . 3 % である。 【関連事業の進捗状況】 関連事業として、県営かんがい排水事業及び基盤整備促進事業によりため池及び末端かんがい施設の整備を計画的に行っている。関連事業全体の進捗率は 2 4 . 7 % (平成 1 5 年度までの事業費ベース) である。 なお、これまで 6 地区 1 5 4 . 1 ha (2 9 . 6 % (面積ベース)) が採択されており、残りの 1 4 地区 3 6 6 . 7 ha (7 0 . 4 % (同)) が平成 1 7 年～ 2 8 年に計画されている。 平成 1 6 年度より既存ため池、平成 1 8 年度より千原地下ダムを活用し、関連事業による末端整備が完了している地区に暫定通水を行い、効果の早期発現を図ることを計画している。		

評	【社会経済情勢の変化】 伊是名村の総人口は、平成7年の1,895人に対し、平成12年には1,897人とほぼ横ばい傾向にある。 農業就業人口は、平成7年の333人に対し、平成12年には214人（36%）に減少している。しかしながら、平成12年における産業別就業人口に占める農業就業者数の割合は26%であり、沖縄県全体が同6%、沖縄県北部地域が同14%であることに比して、農業への依存は依然として高い状況にある。 販売農家数は平成7年の317戸に対し、平成12年には266戸（16%）に減少している。専業農家数は平成7年の68戸に対し、平成12年には73戸（+7%）に増加している。 経営耕地面積1.5ha以上の農家は、平成7年の94戸に対し、12年には109戸（+16%）に増加している。また、1戸当たりの平均農用地面積は、平成7年の1.3haに対し、平成12年には1.6ha（+23%）に増加している。平成12年の沖縄県全体1.1ha、沖縄県北部地域0.9haに比して、本地域は規模拡大が進んでいる。 農業算出額は、現計画直近5カ年平均（H5～H9）の706百万円に対し、最近5カ年平均（H9～H13）は655百万円（7%）に減少している。
価	【事業計画の重要な部分の変更の必要性の有無】 現在、事業計画の見直しが必要となるような要件は認められない。 事業の施行に係る地域：事業計画の変更を要する受益地域の変更は生じていない。 主 要 工 事 計 画：主要工事計画の変更は生じていない。 事 業 費：事業計画の変更を要する事業費の変動は生じていない。（4%増（物価変動を除く））
項 目	【費用対効果分析の基礎となる要因の変化】 本地区においては、作物生産量が増加する効果、従来の施設機能が維持される効果等を主な効果として見込んでいる。 現時点においては、費用対効果分析の基礎となる作物単価、収量等に変動があり、営農計画の基礎となる伊是名村の地域農業マスタープラン等では農業情勢の変化に対応するため作物の一部見直しがあるものの、土地利用型のさとうきびと野菜や花き等の適切な組み合わせにより安定した農業生産体制の確立を目指しており、現計画との大きな変化は認められない。 費用対効果分析を試行した結果は以下のとおりである。 総便益（B） 22,203百万円 総事業費（C） 21,928百万円 費用便益比（B/C） 1.01（試算値） 注）総便益、総事業費には関連事業を含む。
	【環境との調和への配慮】 工事の施工については、下記のとおり環境に配慮しつつ事業を実施している。 ・小動物への配慮として、大野山内取水路において通行路としてスロープを設けている。 ・千原貯水池流入施設において、鳥の休息地となるよう水位を保っている。 ・景観への配慮として、千原地下ダムの地表貯水部法面及び第2副貯水池において緑化を図るとともに、平成16年度工事予定の第1副貯水池においては、地元集落の会合やアンケート等を行い、地域住民の意向を反映させることを計画している。 ・カンゾウ調整池の建設予定地付近は伊是名島の数少ない原生林地域であり、地域の信仰対象や小学校の自然学習の場となっていることから、建設位置を変更する。 今後とも、伊是名村田園環境整備マスタープランと整合を図るとともに、工事实施に当たっては沖縄県赤土等流出防止条例に基づき赤土等流出防止対策を講ずることにより、環境との調和に配慮する。

評価項目	【事業コスト縮減等の可能性】 千原貯水池の法面（チャート層、砂岩層混在部）において、当初の計画では法勾配を 1.0（法枠工＋厚層基材吹付）としていたが、新たな設計手法を用い、法勾配、用地、工法等を総合的に比較検討した結果、法勾配を 1.5（厚層基材吹付）の緩勾配に変更し、コスト縮減が図られた。 大野山内用水路において、当初の計画では管の埋設を道路下 1.2 m に埋設することとしていたが、道路管理者との協議により浅埋設工法によって道路下 0.6 m に埋設し、コスト縮減が図られた。 今後の事業推進の過程においても、可能な限りコスト縮減に取り組んでいく。
	【関係団体の意向】 国営事業の実施は伊是名村の農業振興にとって重要であり、地元農家における国営事業に寄せる期待は大きく、本事業の早期完成、早期効果発現及び環境との調和への配慮した事業推進を望んでいる。
	【評価項目のまとめ】 ・本地区の農業はさとうきびを中心として行われているが、恒常的な水不足により用水の確保が困難な状況にある。本事業によって新たな水源を確保し水あり農業を实践することで、さとうきびと野菜や花き等との複合経営が可能となり、農業経営の安定化に大きな効果が見込まれる。 ・効果の早期発現のため、国営事業の進捗に併せて関連事業を計画的に推進していく必要がある。 ・各関係団体とも、農業経営の安定化のため、事業の早期完成による水の安定供給に大きな期待を寄せていることから、今後とも事業を着実に推進する必要がある。
	【第三者委員会の意見】 伊是名村の農業の振興にとって本事業の果たす役割は重要であり、地元関係者及び団体においても、さとうきびと野菜や花き等との複合的な農業経営の安定化のため本事業に大きな期待を寄せている。 今後、事業効果の早期発現に向け、本事業の早期完成と関連事業の一層の促進を図る必要がある。 本事業の実施にあたっては、環境に配慮した工法を積極的に取り入れるとともに、引き続きコスト縮減に取り組む必要がある。
	【事業の実施方針】 平成 20 年度完了に向けて事業を着実に推進し、環境に配慮した工法を取り入れるとともに、コスト縮減に努める。